岩手県自殺予防情報センター ニュースレター

第 41 号　平成 22 年 8 月 9 日発行　　発行：岩手県精神保健福祉センター　岩手県自殺予防情報センター　（担当：大澤・小館）

このニュースレターは自殺対策に関わる担当者、関係者の方々に配信しています。皆様からの情報やご意見をお待ちしております。また、配信先を募集しております。関係者や機関の方々のご紹介をお願いいたします。

NEWS 7 月の自殺者数(警察庁速報値)が発表されました

警察庁のまとめによる全国の 7 月の自殺者数（速報値）は、昨年同月より 55 人多い 2,838 人でした。昨年 8 月以降 11 カ月ぶりに前年同月の自殺者数を上回りました。岩手県は、13 人増加しています。

	H21 年 7 月自殺者数(人)	H22 年 7 月自殺者数(人)	対前年同月比増減数(人)
全国	2,783	2,838	55
岩手	39	52	13

・**警察庁 HP**：http://www.npa.go.jp/
・**月別の地域における自殺の基礎資料（平成 22 年 6 月）**：
http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/tsukibetsu-h2206.html

NEWS DV（domestic violence）と自殺

DV 被害者の希死念慮は一般と比して 2～3 倍高いという報告があります。DV 加害者の殺人率は高いのですが、被害者を殺害した後に加害者が自殺する場合もあり、その高い自殺率もアメリカでは問題になっています。また、DV 被害者の精神障害について、女性では DV に先行して精神障害があり、しかも DV の結果としても精神障害が生じうるという指摘があります。一方男性の被害者の場合は、DV の結果ではなく、むしろ DV に先行した精神障害が危惧されています。さらに DV 加害者の精神障害率の高さも知られています。このように、DV・自殺・精神障害は互いに関連することが示唆されており、DV・自殺・精神障害の危険要因と、保護要因（適切な保健サービスやアクセスのしやすさ等）はまた重なっています。

当センターが 21 年 1 月から 12 月に DV 相談関連機関に実施した基礎調査では、全相談 316 件のうち自殺関連相談は 93 件見られました。また、回答した 25　人のうち自殺につながる兆候を知っている相談員の方は、16 人でした。

DV 被害者、自殺に傾いた人、精神障がい者等、支援を本当に必要としている人は、支援に気づかない、支援を受けることに躊躇しがちで、本来の意思決定や判断が困難な場合が少なくありません。だからこそ、相談時には支援者側こそあきらめないことが大事で、紹介の際はたらい回しではなく確実につながる方法を工夫することが必要となります。こうしたひきさがらない相談をするには、支援者側がチームを組み継続的な支援ができるフォロー体制を作ることがポイントになります。さらに、支援者個人の健康増進活動が大事になります。

7月6日の男女共同参画課の枠を利用させていただき開催した自殺対策研修では、稲垣正俊医師による講義の他、当職員による自殺の評価のためのロールプレイ、フロアのディスカッションが行われました。実際にDV相談にあたっている相談員の方からは「日常業務で利用する相談記録表に、リスクファクターのチェックリスト、スクリーニングなどが予め組み込まれている等の仕組みがあれば良い」、法律家の方からは「相談員の ML などを作り、知識を共有化するしくみが必要ではないか」等の意見があげられました。また滝沢村の担当者からは、既に DV 担当部署と自殺対策部署がチームを組んでハイリスク者への訪問対応をしている事例が報告されました。この他参加者からは、「DV だけに注目せず、包括的に意識的に相談対応することに気づかされた」、「命を守れる」などの勇気づけられる意見をいただき、全員から講義内容について有用であったと評価いただきました。当センターでは、自殺ハイリスク者の相談経路と、ケースマネジメント・精神保健福祉技法の研修と評価が結びついた事業の提案を今後も継続する予定です。

厚生労働省の人口動態統計月報を基にした資料はこちら
月別自殺者数の推移
http://www8.cao.go.jp/jisatsutaisaku/toukei/index.html#everymonth

7/6DV・自殺に関する相談研修
上：講師の稲垣正俊先生
下：グループワーク風景

フィールドレポート 自殺対策に関わる民間団体の活動紹介No.7

◎宮古地区傾聴ボランティア「支え愛」

この会は、三浦代表の呼びかけをきっかけに、平成 18 年に設立しました。宮古市の広報で募集したところ 10 数人が集まり、これまで傾聴講演会や傾聴ボランティア養成講座を開催してきました。平成 19 年から 21 年までに延べ 141 人の修了生が輩出されています。現在 44 人の会員が福祉施設、宮古病院、家庭訪問、新里地区ふれあい健康づくりサロンで傾聴活動を行っています。今後は、高齢者、自殺予防対策、緩和ケア、子育てなど部門別のリーダー養成を行うことを目標としています。また、誰でも気軽に集え、こころのサポートに関わる団体の拠点となるような「こころサポートセンター」を設置したいと考えています。

代表　三浦章氏
連絡先:0193-63-7205

資料紹介 パンフレット「強いショックを受けた後の こころとからだの変化について」

このパンフレットは、災害や事件、事故、大切な人の自死などのショックな出来事の後の、こころとからだの変化とその対処法をわかりやすく説明しています。相談機関のご案内も記載しています。岩手宮城内陸地震でも現地の救援活動にこちらを利用しました。

当センターに多数用意がございます。災害・事件・事故後の情報提供やケア活動、救援者への惨事ストレス対応の際にお役立ていただけましたら幸いです。ご入用の際は、当センター(019-629-9618)までお問い合わせください。

インフォメーション

★9月は自殺防止月間です

WHOは9月10日が世界自殺予防デー、内閣府では9月10日～16日を自殺予防週間としています。岩手県では9月を自殺防止月間として、県内各地で取組みの強化を実施する予定です。皆様の取り組みへのご参加、ご協力をお願い致します。

★「自殺予防2010ボランティア・民間団体活動交流会」を開催します

◎ボランティア・民間団体の展示を募集します

交流会では、パネル・ポスターなどによるボランティア団体等の活動紹介を展示発表します。団体様からの展示のお申込みをお待ちしております。(〆切:9 月 10 日)

日時:平成 22 年 9 月 24 日(金)　10:30～16:30(受付 10:00～)
会場:プラザおでって(交流会:おでってホール　展示発表:大会議室)
　　(盛岡市中ノ橋通 1-1-10)
対象:自殺対策や心の健康づくりに関わるボランティア・民間団体、一般、行政機関の職員
内容:・活動の展示発表会　10:30～終了時間迄　　大会議室
　・特別講演「こころと命を支える地域づくり～生き心地のよい地域をめざして、私たちのできること～」(仮題)　13:40～14:50
　　[講師]　関西国際大学人間科学部人間心理学科　教授　渡邉直樹先生
　・情報交換会　15:00～16:30
　　〈傾聴活動の工夫と悩み〉
　　〈活動を支えるための"ネットワーク"〉
　　[報告者]　傾聴ボランティア「やまびこ会」、気仙地域傾聴ボランティア「こもれびの会」、精神保健ボランティア「あおぞら会」、久慈地域メンタルヘルスセンター、ボランティア団体活動ネットワーク「さん・Sunねっと」
共催:ボランティア団体活動ネットワーク「さん・Sunねっと」
　　岩手県精神保健福祉協会

問合せ・申し込み先:
岩手県精神保健福祉センター
019-629-9618(担当:太田)

★「青年期ひきこもりに関する支援者研修会」を開催します

日時:平成 22 年 9 月 6 日(月)　13:00～17:00(受付　12:30～)
会場:エスポワールいわて　大中ホール(盛岡市中央通 1-1-38)
対象:思春期・青年期ひきこもり相談や支援等を実施している保健、福祉、医療、就労、教育、民間団体等
内容:・講義「ひきこもり相談のケースマネジメント(仮題)」
　　[講師]　山梨県立精神保健福祉センター所長　近藤直司先生
　・ケースマネジメント会議を実施予定
　　[講師]　岩手県精神保健福祉センター職員

問合せ先:
岩手県精神保健福祉センター
019-629-9616(担当:山岸)